（第３種郵便物認可）　（毎週水曜日発行）

廃棄物処理業界初の「aaa」格付け

長野県佐久市のフジコーポレーション

財務体質に高い評価

独自技術によるフジ式直壁型最終処分場を運営するフジコーポレーション（長野県佐久市）は廃棄物処理業で初めて、日本格付研究所（ＪＣＲ）が提供する中堅・中小企業格付けで最高位の「ａａａ」（トリプルエー）を取得した。２日には小諸市の小諸グランドキャッスルホテルで地元市町、関係団体、企業などを招いて報告会を開催した。また同社は自社暫定規制値を設けて、放射性物質を含む下水汚泥の燃え殻・ばいじんおよび尿汚泥の焼却灰・ばいじんの受け入れを開始した。

格付け取得報告会には、地元市町などから多くが参加した

ＪＣＲが行う中堅・中小企業格付けは、中堅・中小企業の財務的な信用力を中小企業信用リスクデータベースを利用した統計的手法により評価するもので、評価結果は「ａａａ」から「ｃ」までの９段階の評価記号で示される。ＪＣＲ独自開発の数理モデルの活用により対象企業の過去５期分の決算書から、対象企業が３年経過した時点でも存続している確率を推定する。フジコーポレーションが取得したａａａは「財務面から見た信用力は最も高い」の評価で、３年後の平均推定存続確率は99・982％。

同社は昨年「財務面から見た信用力は非常に高い」の評価の「ａａ」を獲得。今年さらに上位の格付けを取得した。報告会であいさつした山口藤吉郎会長は、「廃棄物処理業界は産業的な位置付けに至っていない。だからこそ信用調査、格付けを取得するのが重要だと考えた。また、当社は一般廃棄物の処理・再生を市町村から受託している。市町村は無限であるのが前提で、そこから業務を請け負う受託者も無限でなければならない。第三者である格付け機関から格付けを取得することが、当社が倒産しない、無限であるという一つの根拠となる」と述べた。

また同社は放射性物質を含む下水汚泥の燃え殻・ばいじんおよび尿汚泥の焼却灰・ばいじんの受け入れに際し、放射性ヨウ素２千ベクレル以下、放射性セシウム１キログラム当たり５００ベクレル以下、放射性ヨウ素2千ベクレル以下の自社暫定規制値を設けた。国が定めた指針では8千ベクレル以下は埋め立て可能としているが、人が触れる可能性などを考慮して独自基準を設けた。山口会長は「8千ベクレル以下のものを受けるわけではないが、国が8千ベクレル以下は人体に影響ないと判断したということをまず理解して欲しい」とした。

放射性物質含む焼却灰など

自社基準で受け入れ